

2025年度 館山市の住民満足度および観光に関する 市民アンケート 結果報告書

主催：（一社）館山市観光協会
協力：館山市

アンケート実施期間：令和8年2月1日～令和8年2月28日
回答数：171

報告日：2026/3/25

本アンケートの説明

1. 調査の目的

館山市の住民満足度、および観光に関する住民の意識を調査すること。

1. 回答者

館山市に居住している、または館山市で働いている、あるいはその両方に該当する人。

1. 回答期間

2026/2/1～2026/2/28

1. 回答方法

館山市観光協会公式サイトに設置されたWebページから回答

1. 回答者数

171人

本報告書の説明

1. 選択肢集計にて

①回答者プロフィール、②住民としての満足度、③観光による影響、④観光に対する取り組みの認知、⑤観光客との接点、⑥域外へ伝えたい南房総市の魅力、⑦観光をきっかけとしたまちづくりへの関心を聞きました。

2. 自由記入欄にて

観光客にもっと喜んでもらうためのアイデア、伝統行事や文化の継承についてのアイデア、観光施策に対する評価、その他（自由記入）を聞きました。

3. 本報告書について

上記1、2について、総数および自由記入の意見を集計しました。
最終ページに選択肢集計の総数を掲載しました。

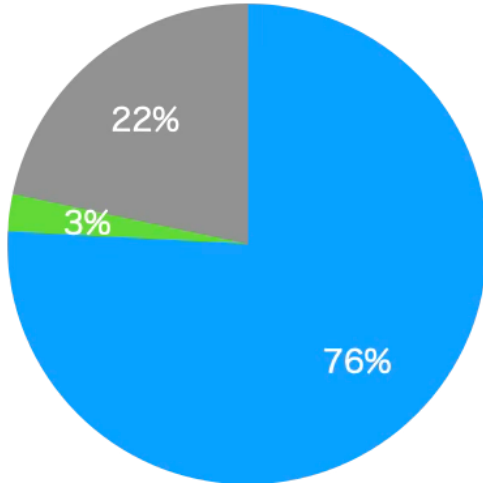
設問と回答形式

No.	質問	必須	回答形式
Q1	館山市の観光は重要だと思いますか		単一選択
Q2	館山市観光協会は、観光まちづくりを推進するために「地域DMO」設立について検討をしています。「DMO」についてその役割や機能を知っていますか？		単一選択
Q3	館山市や観光協会の具体的な実施事項を知っていますか		単一選択
Q4	館山市の魅力を域外の人に伝えたいですか		単一選択
Q5	館山市の魅力のうち、域外の人に勧めたいと思うものは何ですか		複数回答+自由記入
Q6	過去一年でどのくらい日本人観光客と関わる機会がありましたか		単一選択
Q7	過去一年でどのくらい外国人観光客と関わる機会がありましたか		単一選択
Q8	観光客に何をしたら喜ばれましたか		複数回答+自由記入
Q9	観光客が増えることで、あなたの暮らしに良い影響が出ていると思いますか		単一選択
Q10	「観光」はあなたにとって、どのような良い影響がありますか		複数回答+自由記入
Q11	「観光」はあなたにとって、どのような悪い影響がありますか		複数回答+自由記入
Q12	観光客にこうしたらもっと喜んでもらえると思う案がありますか		自由記入
Q13	人口減少、高齢社会を迎えるにあたり、これまでの祭りなどの伝統行事、文化伝承が10年後もできると思いますか		単一選択
Q14	伝統行事、文化伝承が必要だと思う方は実現するにあたって具体的な案があれば教えてください		自由記入
Q15	地域が持続可能な状況をつくるためには、地域で起こることを「自分ゴト」として捉えることが重要です。これからの時代、住民ができること、するべきことは何だと思いますか？		複数回答+自由記入
Q16	館山市では経済面はもちろん、社会的・文化的な観点で「持続可能な観光地づくり」に取り組もうとしています。最終的には住民の生活の質の向上を目指しています。現在の館山市は「持続可能な観光地」として満足のいくものですか？		単一選択
Q17	今後も館山に住み続けたい、または仕事をし続けたいですか	○	単一選択
Q18	館山市の観光施策について評価できる点は何か、ご意見があればご記入ください		自由記入
Q19	館山市の観光施策について評価できない点は何か、ご意見があればご記入ください		自由記入
Q20	上記の自由記入以外にご意見があればお聞かせください		自由記入
Q21	館山市や観光協会が主催する、観光に関するワークショップやセミナーに参加したいですか		単一選択
Q22	あなたの性別を教えてください		単一選択
Q23	あなたの年代を教えてください		単一選択
Q24	館山市に		単一選択
Q25	いつから住んで・または働いていますか		単一選択
Q26	あなたの主たる職業を教えてください		単一選択
Q27	現在館山に住むこと、または仕事をするに、満足していますか	○	単一選択

①回答者プロフィール（関わり、性別、年齢）

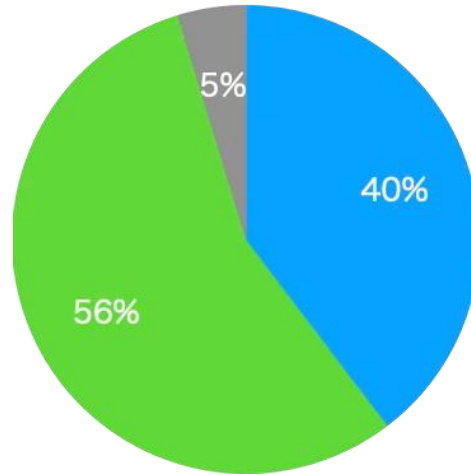
館山市に

● 住んでいる ● 働いている ● 両方

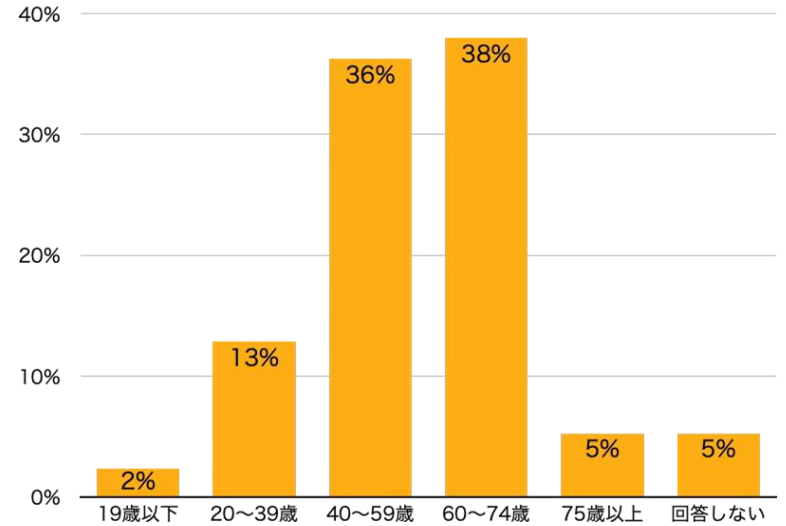


性別

● 男性 ● 女性 ● 回答しない

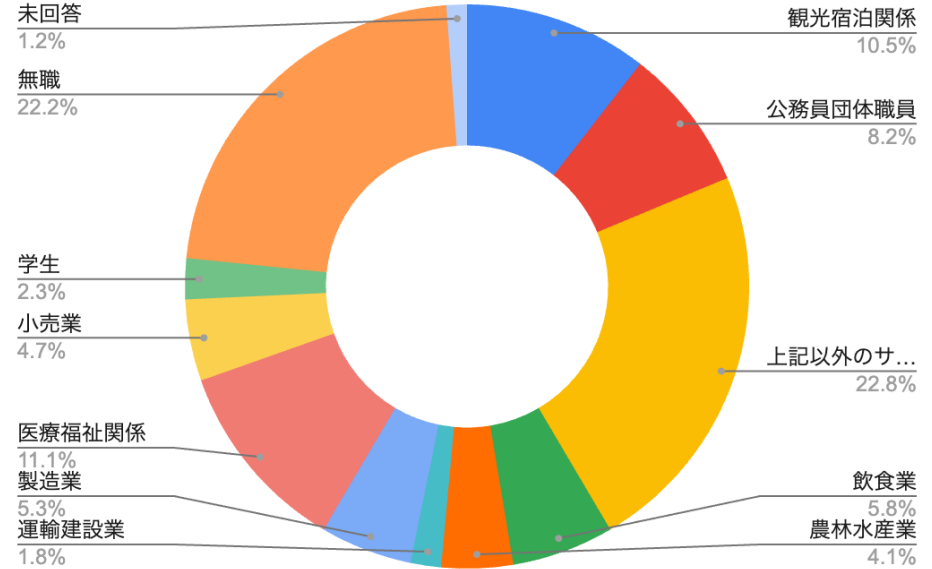
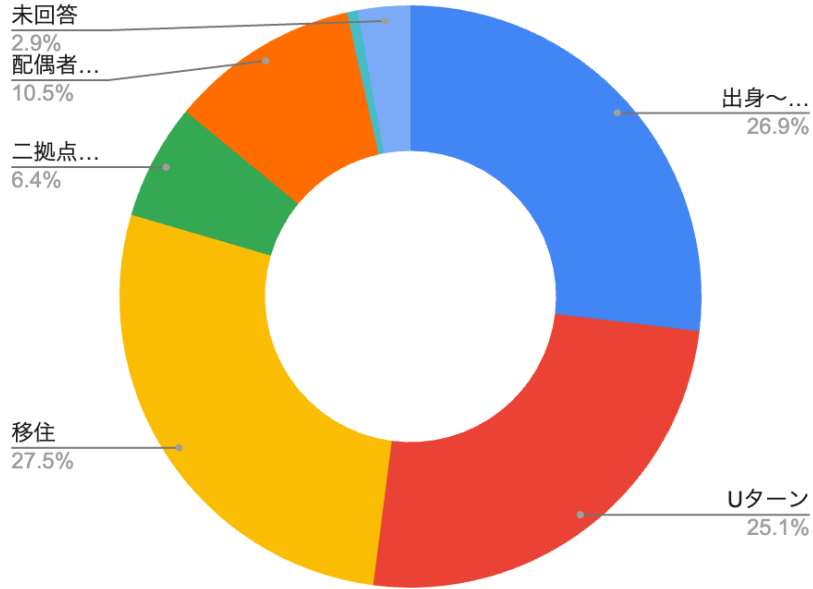


年代



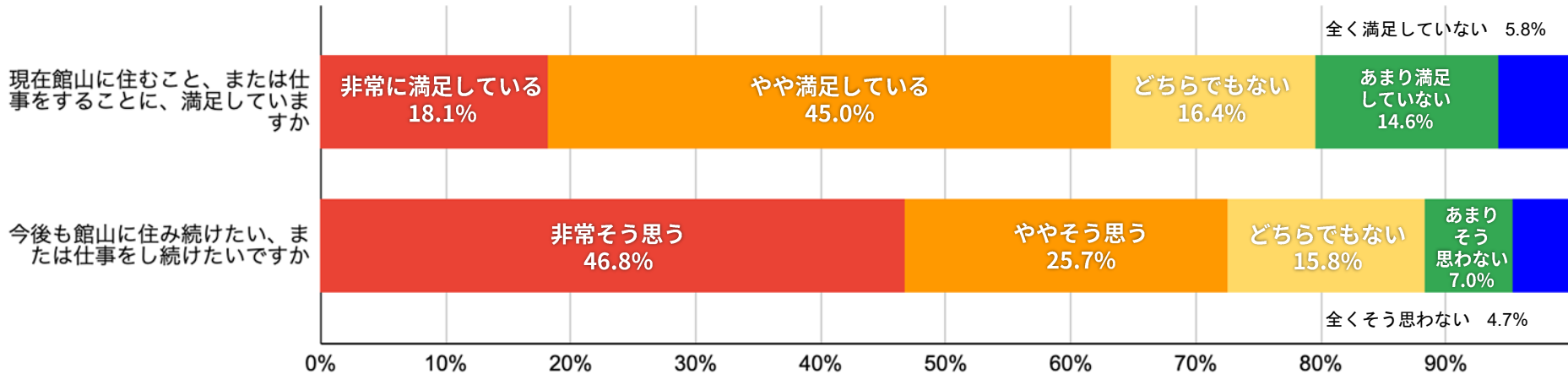
- 回答者の年齢層は40・50代が最も多く、次いで60～75となった。
- 男女比については極端に偏りはなかった。

①回答者プロフィール（居住期間、職業）



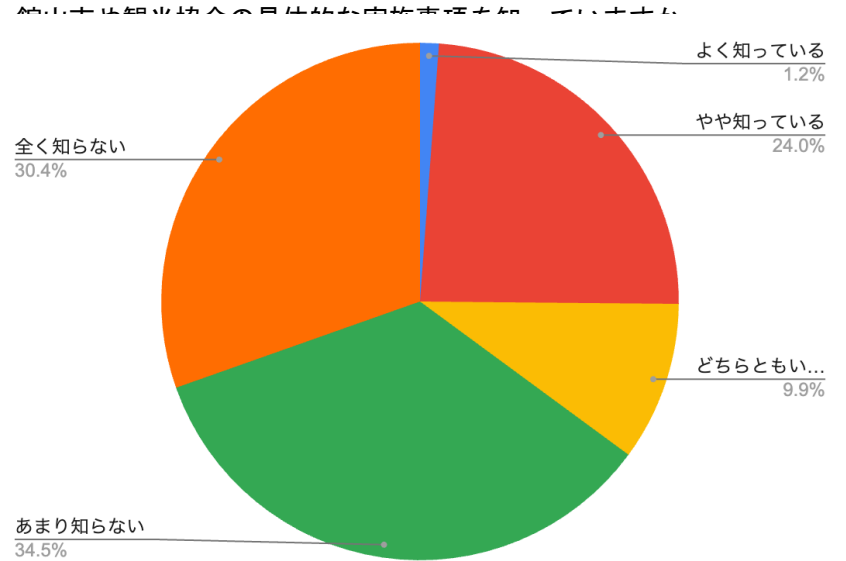
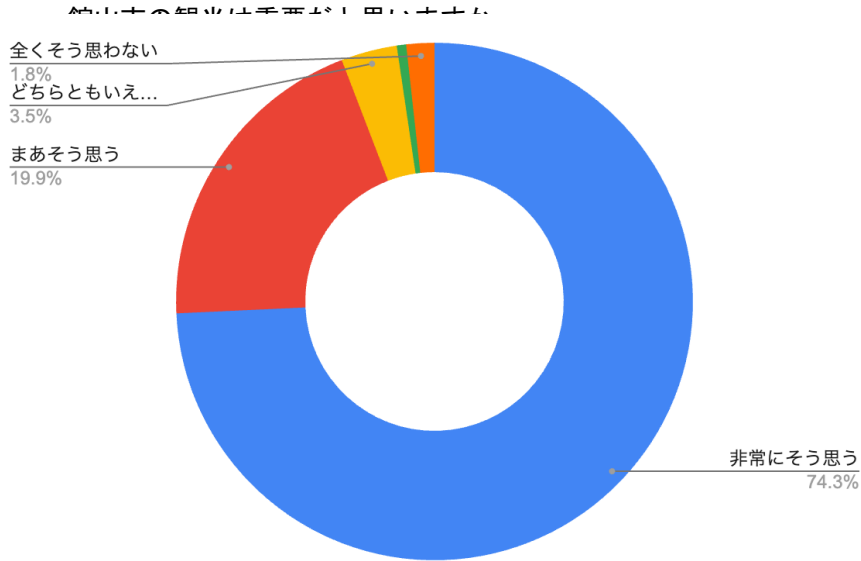
- 回答者は観光関連が10.5%、公務員団体職員は8.2%、それ以外が81.3%だった。
- 出身〜ずっと、及びUターンを合計すると52%程度となり、地元と移住者のバランスは良い。

②住民満足度（住みやすさ、住み続けたさ）



- 住むことあるいは仕事をするにについて「非常に満足している」と「やや満足している」の合計を好意的な意見とすると、好意的な意見の合計は63.1%だった。
- 住むことあるいは仕事をするにについて「あまり満足していない」と「全く満足していない」の合計を否定的な意見とすると、合計は20.4%だった。
- 現在の満足度（好意的）63.1%は南房総市69.2%と比較するとやや辛めの結果となった。
- 今後も住み続けたいかについては、「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計を好意的な意見とすると、好意的な意見の合計は72.5%だった。
- 今後も住み続けたいかについては、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計を否定的な意見とすると、否定的な意見の合計は11.7%だった。

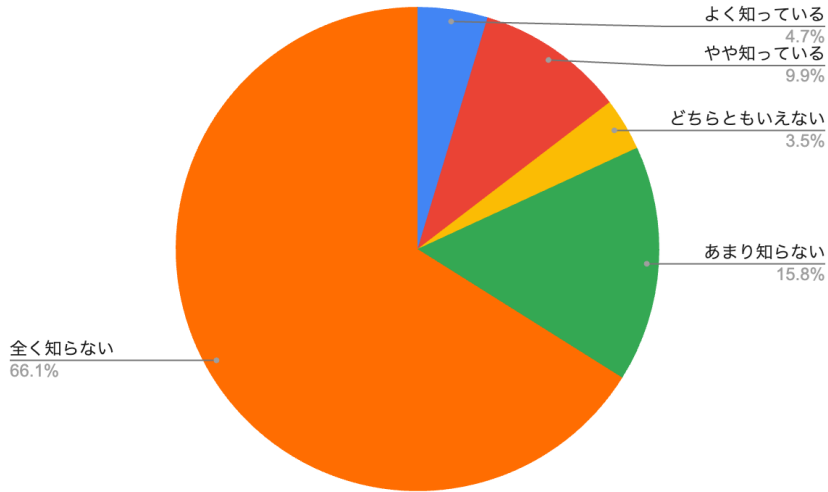
③観光に対する取り組みの認知と評価（重要性、実施事項）



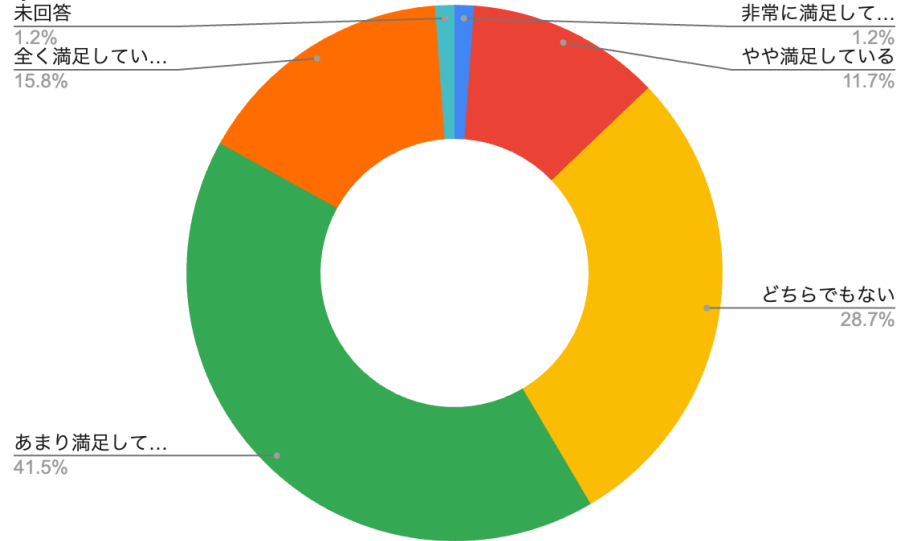
- 「非常にそう思う」と「まあそう思う」の合計は94.2%となり、9割以上が観光が重要であるという認識を持っていた。
- 「まあ思わない」と「そう思わない」の合計は2.4%であった。観光産業に従事していない人が多く回答する中、観光が重要であるという市民の認識が伺えた。
- 一方、自治体と観光協会の具体的な実施項目については、「よく知っている」と「やや知っている」の合計「知っている」が25.2%に留まり、重要だと思っはいるがよく知らない人が多い傾向が見られた。

③観光に対する取り組みの認知と評価 (DMOについて)

館山市観光協会は、観光まちづくりを推進するために「地域DMO」設立について検討をしています。「DMO」についてその役割や機能を知っていますか？



館山市では経済面はもちろん、社会的・文化的な観点で「持続可能な観光地づくり」に取り組もうとしています。最終的には住民の生活の質の向上を目指しています。現在の館山市は「持続可能な観光地」として満足いくものですか？



- DMOについての認知度は、「よく知っている」と「やや知っている」を足し合わせた14.6%に留まった。
- 現在の館山市が持続可能な観光地として満足いくものかは、「非常に満足している」と「やや満足している」の合計を肯定的とすると、12.9%だった。

③観光に対する取り組みの認知と評価（市の観光施策について評価できる点）

（自由回答、全文別途）

■全体の傾向

- ・花火大会、若潮マラソンなどイベントの継続実施
- ・コンサート・舞台誘致など新しい集客施策
- ・レンタルサイクルなど観光・生活を支える仕組み
- ・無料駐車場の開放、道の駅整備など利便性向上の取り組み
- ・移住相談（おせっ会など）の実施
- ・アンケート実施など市民の声を拾う取り組み
- ・DMO設立に向けた動きや観光連携の取り組み

■年代別で目立った声

- ・20～39歳 イベント誘致、レンタルサイクル、日常利用にも役立つ施策
- ・40～59歳 イベント継続、無料駐車場、道の駅、移住支援
- ・60～74歳 DMO、アンケート、観光連携、施設管理（城山など）
- ・75歳以上 アンケートなど意見収集の取り組み

- 自由回答形式により、46人が評価できることを回答した。

③観光に対する取り組みの認知と評価（市の観光施策について評価できない点）

（自由回答、全文別途）

■全体の傾向

- ・観光の方向性や重点施策が不明確
- ・グリーンファームなど施設整備の計画・設計・運用の不十分さ
- ・施策やイベントの情報発信・周知不足
- ・交通施策（公共交通、導線設計）の弱さ
- ・景観整備、清掃、維持管理の不足
- ・施策の分散（ばらまき）による効果の弱さ
- ・広域連携や戦略的な観光推進の不足

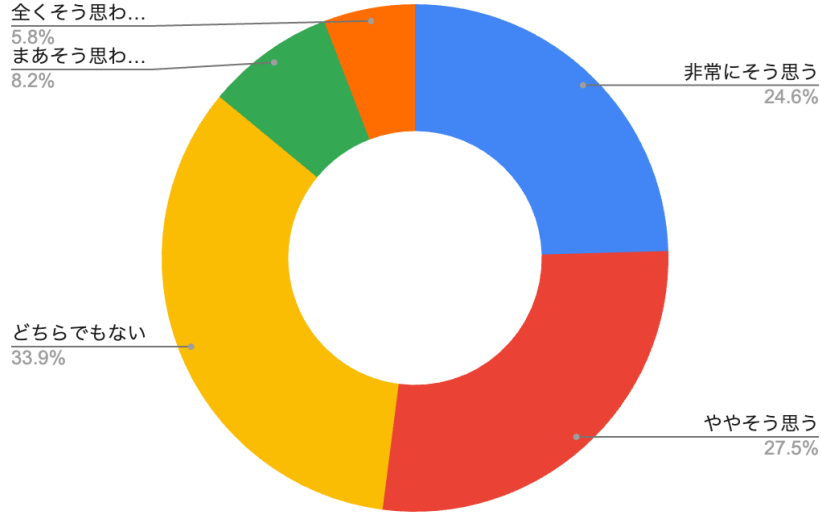
■年代別で目立った声

- ・20～39歳 施策の見えにくさ、重点不在、季節施策の偏り、生活導線への影響
- ・40～59歳 施設の質不足、戦略不足、資源活用の弱さ、インバウンド対応不足
- ・60～74歳 施設の中途半端さ、情報発信不足、リピーター施策不足、企画力不足
- ・75歳以上 戦略の不明確さ、観光と市民の優先順位の曖昧さ

- 自由回答形式により、78人が評価できないことを回答した。

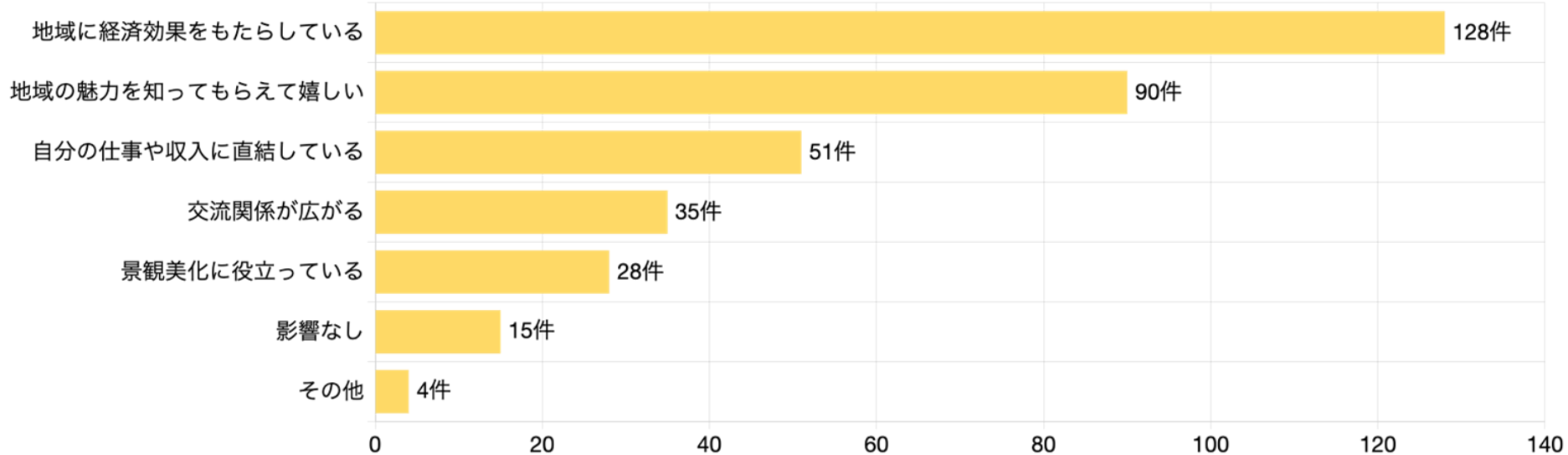
④ 観光の影響（自分の暮らしへの影響）

観光客が増えることで、あなたの暮らしに良い影響が出ていると思いますか



- 観光客が増えると暮らしに良い影響が出るかについて、「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計を好意的な意見とすると、好意的な意見の合計は52.1%だった。
- 観光客が増えると暮らしに良い影響が出るかについて、「まあそう思わない」と「全くそう思わない」の合計を否定的な意見とすると、合計は14.0%だった。

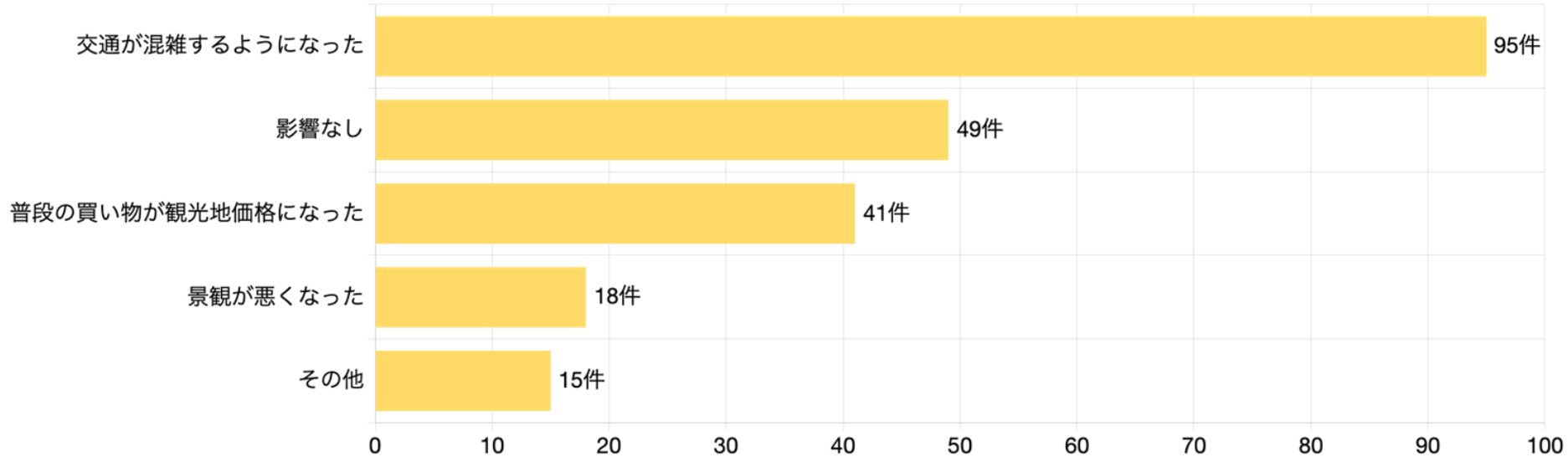
④ 観光の影響（良い影響） （複数回答）



【その他の回答】
雇用促進
仕事が増える

- 複数選択可能な回答形式により、全体で351件が回答された。
- 自分への経済効果よりも地域への経済効果が最も多く挙げられた。
- シビックプライドや交流関係の広がりといった精神的な満足が経済効果に続いた。

④ 観光の影響（悪い影響） （複数回答）



【その他の回答】

ゴミに関するもの（6）

治安の悪化（3）

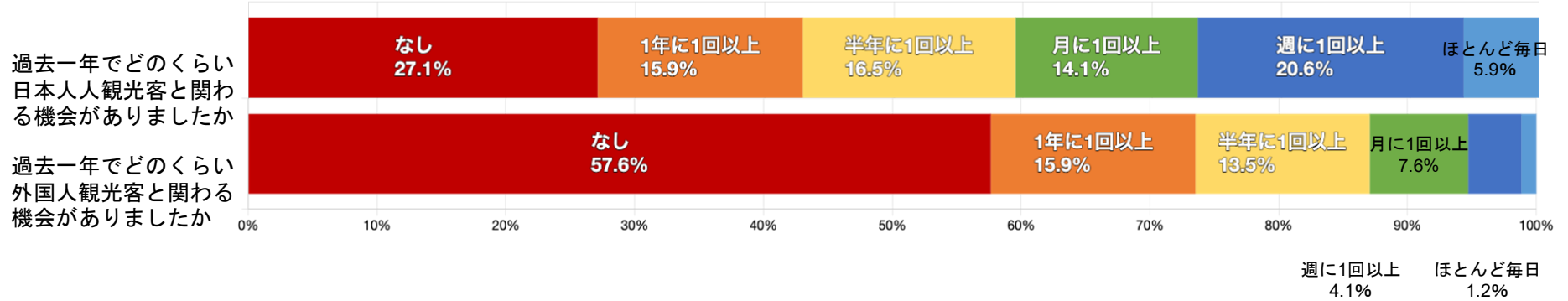
国内外問わず、マナーの悪い人を見かける機会が増えている（3）

買物混雑（2）

外国人労働者の増加

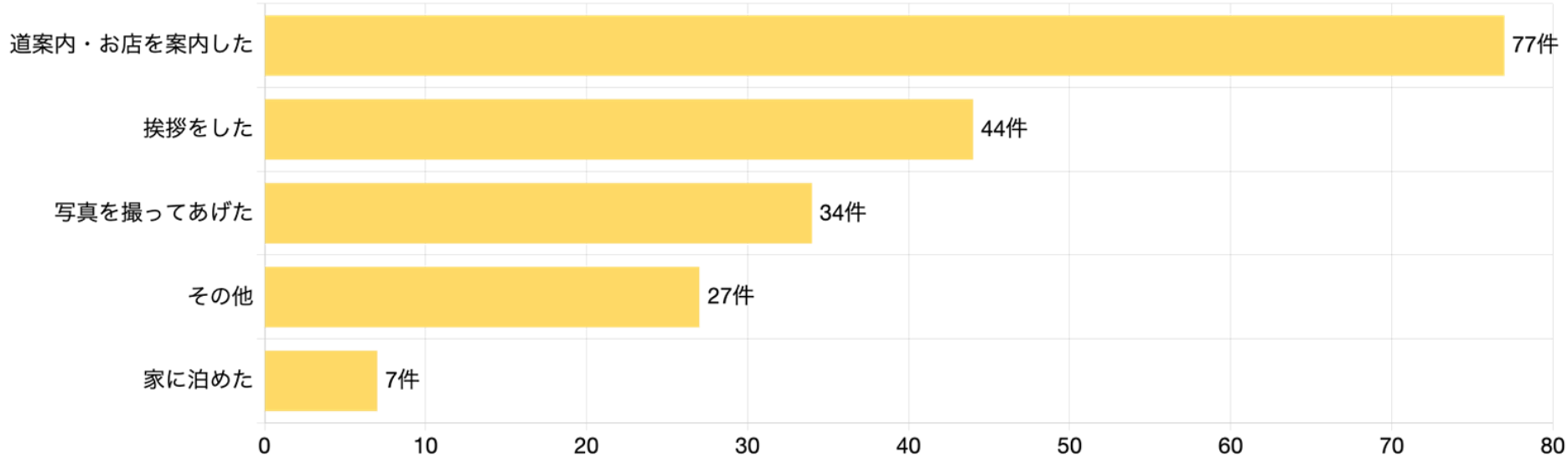
- 複数選択可能な回答形式により、全体で218件が回答された。
- 回答者総数は171人であって、影響がないという回答が49件だったことから3割弱は悪い影響がないと捉えていた。
- 主な悪い影響は、交通の混雑、買い物価格の上昇、観光客由来のゴミやマナーの問題であった。

⑤観光客と接する機会（日本人、外国人）



- 回答者プロフィールより、観光を仕事にしていると回答した人が全体の10.5%程度（本報告書6Pに記載）だったことから、観光の仕事をしていない人でも日本人観光客との接点は多少はあるというケースも見られた。
- 外国人観光客と週に1回以上の接点を持っているのは5.3%だった。

⑤ 観光客と接する機会（何をしたら喜ばれたか） （複数回答）



- 込み入ったサービスはその他欄に記載されたが、会話をした、ガイドや案内をしたことが主なところだった。
- 道案内やお店の案内、挨拶がメジャーなところなので簡単な会話ができるとサービス向上の底上げにつながりそうだ。

【その他の回答】

接客（2）
 料理を作った
 ホームステイ
 館山に関するよもやま話
 他愛のない会話
 観光出来る施設を案内した
 犬を触りたがったので触らせてあげた。
 交通関係の案内
 ガイド

個人での対応はないが、緊急時の情報提供は重要と考えます
 ホテル清掃の仕事をしている為
 観光にあたって必要な情報の提供 駐車場有無など
 上記3問は、質問の意図が全くわからない。何故日本人と外国人を分ける？親切にすることは道德ではないのかな？
 来客として来ていただいた。
 相手の国・エリアの歴史・文化をリスペクトした。

⑤観光客と接する機会（もっと喜んでもらえると思う案）

（自由回答、全文別途）

■全体の傾向

- ・交通の利便性向上
- ・体験型コンテンツの充実
- ・景観・環境整備
- ・情報発信の強化
- ・観光施設・目玉施設の充実

■年代別で多かったもの

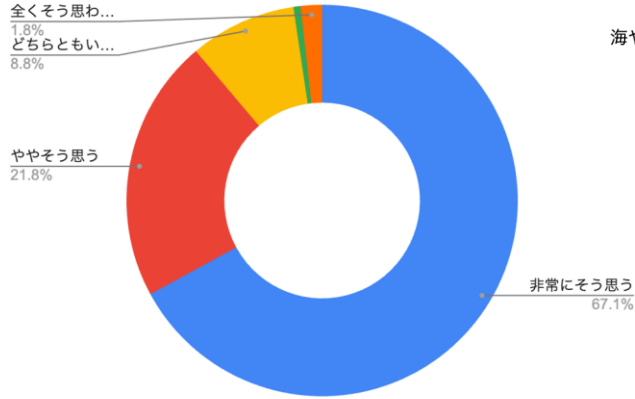
- ・20～39歳
交通の利便性向上
体験型コンテンツの充実
情報発信・デジタル活用

- ・40～59歳
交通の利便性向上
景観・環境整備
観光施設・目玉施設の充実
体験型コンテンツの充実
- ・60～74歳
交通の利便性向上
観光施設・目玉施設の充実
情報発信の強化
景観・環境整備
- ・75歳以上
体験型コンテンツの充実
景観・環境整備
情報発信・行政の関与強化

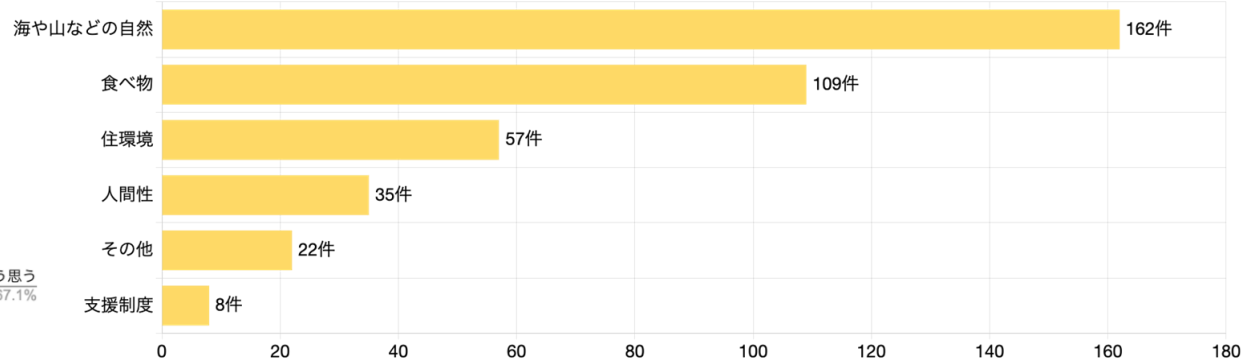
- このページでは、5回以上出現した主な意見を全体傾向として集約した。全文は別途添付資料にて記載した。
- 交通利便性の向上（公共交通・二次交通・周遊手段の充実）、観光資源の充実と魅力づくり（体験型コンテンツ・拠点施設の整備）、景観・環境整備（海岸・道路・植栽・トイレ等の維持管理）、案内・情報発信の強化（SNS活用・観光案内・モデルコース整備）、観光施設の充実（全天候型施設・滞在拠点・駅周辺機能）に関する意見が多かった。

⑥域外へ伝えたい館山市の魅力（魅力を伝えたいか、勧めたいものは何か）

館山市の魅力域外の人に伝えたいですか



館山市の魅力のうち、域外の人に勧めたいと思うものは何ですか（複数回答）



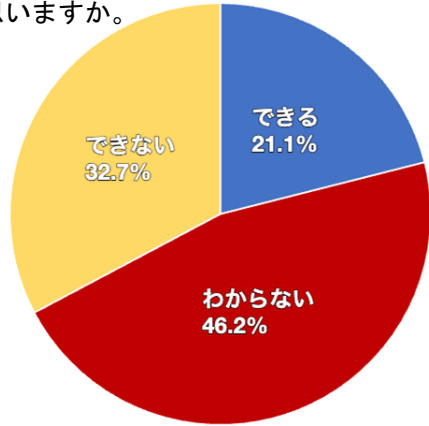
- 館山市の魅力域外の人に伝えたいか、については「非常にそう思う」と「ややそう思う」を足し合わせた肯定的な意見は88.9%だった。
- 「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計は2.4%で少数だが、思わない人はいた。
- 魅力として伝えたいのは、自然、食べ物が多かった。

【その他の回答】

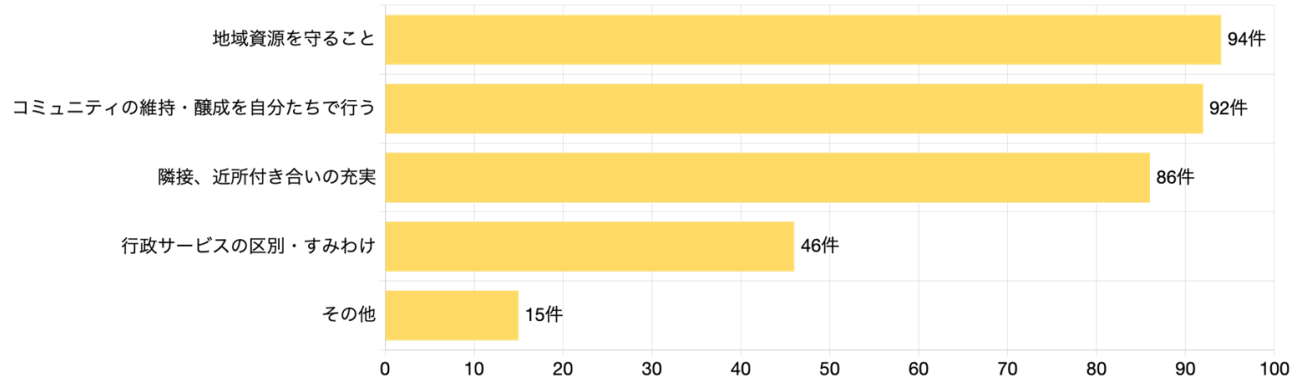
祭礼（4）
 温暖な気候（3）
 花火大会（2）
 首都圏との交通利便性（2）
 歴史や文化（2）
 アニメ聖地巡礼
 農林水産業
 事業誘致
 館山市では今は無くなってしまったが、花摘み等が出来る施設等
 地元の人が営む飲食店の紹介
 夕日
 魅力があれば契機無くとも来てくれます。
 マルシェや体験イベント
 学校の多様性
 自然体験

⑦観光をきっかけとしたまちづくりへの関心（文化の継承、持続可能性について）

人口減少、高齢社会を迎えるにあたり、これまでの祭りなどの伝統行事、文化継承が10年後もできるといいますか。



地域が持続可能な状況をつくるためには、地域で起こることを「自分ゴト」として捉えることが重要です。これからの時代、住民ができること、すべきことは何だと思いますか？



- 10年後の文化継承については、肯定的な意見は21.1%だった。
- 持続可能な地域づくりについて、複数選択可能な回答形式により、全体で333件が回答された。
- 選択肢の中からは大体同数で地域資源を守ること、コミュニティの維持・醸成を自分たちで行う、近所付き合いの充実などコミュニティに関するアクションが多かった。

【その他の意見】

- ・ 持続可能な行政なくして、地域の持続可能は無い
- ・ 観光に関係ない人に自分事と思わせることが難しい。行政が頼んで出来ること。花も魚も。
- ・ 館山市民の意識の改善
- ・ 行政頼みからの脱却、市民（企業や民間団体等）と行政が協働していく仕組みや組織づくり
- ・ 館山に誇りを持てる物を住民に定着させる
- ・ お年寄りのごみ捨て等を手伝う(100円とか館山通貨を付与して)木更津市参考

- ・ 地元で買い物。フランチャイズ店ばかり行かない。
- ・ 青年会等の見直し
- ・ 内容が長すぎると出て思ってる事が書き込めません、発言を求めるなら制限するのはおかしくないですか
- ・ 地域で雇用を作る
- ・ 情報共有のオンライン化
- ・ 同じ考え、方向になる事などありませんが、個々が良くしようとするれば良いかなと思います。
- ・ 個々の自立

⑦観光をきっかけとしたまちづくりへの関心（伝統行事、文化伝承の具体的な案）

（自由回答、全文別途）

【最も多かった意見】

- ・ 外部・地域外からの参加受け入れ
（移住者・観光客・他地域・外部人材の参加）
- ・ 若い世代・子どもへの継承
（学校教育・子ども会・若者参加・担い手育成）

【多かった意見】

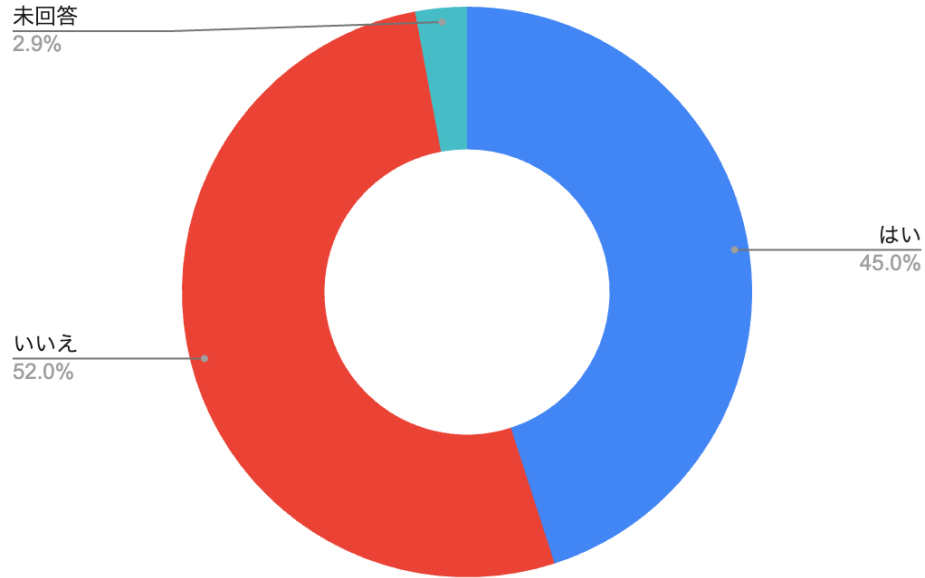
- ・ 人口増加・移住促進・担い手確保
（若者人口・Uターン・移住者増加）
- ・ 祭り・行事の在り方の見直し
（回数削減・合同化・規模見直し・日程調整）

- このページでは、主な意見を集約した。全文は別途添付資料にて記載した。
- 最も多かったのは担い手不足に対する「外部・若者の参加受入」だった。
- 他に文化の意義や価値を認識することも多く見られた。

【複数回登場した意見】

- ・ 参加しやすい仕組みづくり
（敷居を下げる・公募・日程調整・役割分担）
- ・ 地域・地区を越えた連携
（合同開催・地区統合・横連携）
- ・ 行政支援・補助金
（資金支援・制度整備・関与強化）
- ・ 観光との連携・活用
（体験型、ツアー化、集客）
- ・ 情報発信・記録（アーカイブ）
（マニュアル化・映像化・広報）
- ・ 担い手への報酬・インセンティブ
（有償化・負担軽減）
- ・ 文化・祭りの意味の再定義
（本来の目的の見直し・価値の再認識）

⑦観光をきっかけとしたまちづくりへの関心（市や観光協会が主催する、観光に関するワークショップやセミナーに参加したいか



- 「はい」は45.0%で半分を割った。

上記以外にご意見があればお聞かせください

(自由回答、全文別途)

■全体の傾向

- ・既存資源を活かした企画・商品化・イベント化の強化
- ・空き施設や既存施設の再活用（グリーンファーム、アロハガーデン跡地、空き店舗）
- ・交通施策の改善（バス、タクシー、特急、高速バス導線）
- ・ターゲット別施策（子ども、ペット、釣り、体験型など）の整備
- ・観光と日常を両立するまちづくり
- ・市民・移住者・外部人材を巻き込んだ体制づくり
- ・戦略設計（DMO、コンサル、マーケティング、人材育成）の必要性

■年代別で目立った声

- ・20～39歳 アニメ施策、食イベント、子ども向け施設、地域バランスの見直し
- ・40～59歳 海の活用施策、交通改善、地域の受け入れ体制づくり
- ・60～74歳 DMO推進、企画チーム化、広域連携、施設活用、戦略設計
- ・75歳以上 体験型観光（祭り・農業など）の導入

- 自由回答形式により、45人が回答した。
- 比較的長文を書いた人が多く、一人が一つの意見ではなく複数の意見を挙げている特徴があった。

